

第3回 西条市地域公共交通活性化協議会 議事要旨

日時：平成27年12月21日 14:00～
場所：西条市役所小松総合支所 4階大会議室

1 開会

2 会長あいさつ

- ・本年10月1日、せとうち周桑バスの協力により、移動実態や目的に即したバス路線の見直しを実施した。
- ・公共交通に関する取り組みが加速度を増し、今まで以上に市民の関心が高まってきている。
- ・市民とまちづくりに寄り添った公共交通ネットワークの形成に向け、委員やアドバイザーの知恵や力を借りながらより良い公共交通を目指していきたい。

3 協議事項

(1)山間部モデル地区における交通体系の検討状況について

○会長

- ・状況について、本業務を委託している株式会社バイタルリードから説明をお願いします。

○株式会社バイタルリード

<資料1 説明>

○事務局

<地元の要望（デマンド型乗合タクシー）補足説明>

○会長

- ・質問や意見はないか。

○西条市連合自治会

- ・加茂地区ではデマンド型乗合タクシーの市街地での乗降場所に関する要望書を市に提出していると聞いている。できるだけ利用する方の希望に添えるようにしてあげてほしい。

○事務局

- ・加茂地区連合自治会から市長宛に要望書を頂いている。事業者との兼ね合いもあるが、できる限り地元の要望に添えるように調整を図っていきたい。

○愛媛県バス協会

- ・資料7～8ページの小学生の乗降状況について、乗った小学生より夕方降りている小学生の方が少ない。時間帯やマイカーによる送迎の関係かもしれない。通学定期とかを使っているのではないかと思うので、どうして数がずれているのかが分かれば教えてもらいたい。
- ・プランA・Bの中で藤之石・千町と荒川地区に分けている。Bプランは料金的には安いがわざわざコンビニの所で乗降はしないと思う。わざわざ藤之石と荒川を別々に作った案を出した理由を教えてください。

○株式会社バイタルリード

- ・乗降調査については平成25年度に実施したものである。数が何故違うのかははっきり申し上げられないが、おっしゃるような、下校時には時間がそれぞれに違ったりするということで、保護者送迎といったものが考えられる。

○事務局

- ・藤之石・千町と荒川地区に分けた点について、藤之石・千町から国道194号を挟んで反対に荒川地区がある。地理的な関係からも移動距離、乗車時間を考えるとスムーズな移動

が確保できることから地域を分けさせていただいた。

○会長

- ・小中学生が定期券で通っているかどうかは分かるか。

○事務局

- ・教育委員会が行っている通学の補助制度がある。補助制度の申請状況は把握しているが、定期券を利用されているかの把握はできていない。

○西条市医師会

- ・最終的には楠窪線の「楠窪」と「湯谷口」の間を廃止する結論でよいか。その費用削減効果はどのくらいか。
- ・公共交通をバスだけに限定したとしたら、どれだけの利用率がアップするかなどの計画部分はあるのか。
- ・費用効果についてはこの区間の廃止で結論付けられているが、必要のあるものないものでアクションを起こさないといけないと思うがどうか。

○事務局

- ・湯谷口から楠窪間を廃止することにより、27年度ベースで約86万円の補助金が削減となる。
- ・楠窪でも80歳以上の方が大半を占めている状況の中で、バス停まで移動ができないといった理由から乗車率は非常に少ない。しかし、楠窪線においては湯谷口から周桑営業所間の利用者が多い。10月に実施した見直しによって細かい利用実態の整理はまだできていない状況であるが、一定の利用者は見込まれるものと考えている。

○香川高等専門学校 宮崎准教授

- ・加茂地区の資料10ページ、この絵を見ると非常にわかりやすい。4便に関する利用者の実態を見ると生活する上で外出しやすいパターンになっている。減便となるとバスでは生活できないということになる。今がまさに限界だろうと思う。
- ・資料13～14ページで気になるところが、外出先としてフジグランが多い。また、よく外出する曜日が火曜日となっているのを見ると、何か特売日でもあるのか？

○西条商工会議所他

- ・ポイント5倍デーだと思う。

○香川高等専門学校 宮崎准教授

- ・一方で日曜日の外出が低くなっているのは病院が休みだからと思われるが、それ以外にも公共交通が少なく車を持っていないとなかなか外出できないという点が非常に大きいかと思われる。
- ・人口150人程度の加茂地区で、どの人たちを助けようとしているのか。資料に免許を持たない人の集計も出ているがどのようにターゲットを絞るのかを整理しておく必要がある。
- ・資料18ページの「せとうちバスに感じること」が記載されている。これは免許の有無を整理しておかないと危険。一般的な回答となっているが、注意しないとイケないのが事務局からも説明があったように、バス停までが遠い方が結構いるということで、このあたりが本当のネックになっているという気がする。
- ・デマンド導入のポイントとなってくるのが、資料20ページ「タクシーについて感じること」の中で、「予約するのが面倒」というのが1/4程度あるのが気になる。タクシー事業者でCTI (Computer Telephony Integration System) の導入確認が一つのポイント。電話を掛けると電話番号からどこから電話をかけてきているかが分かるシステム。「自宅の場所を告げるのが面倒」というのではなく、むしろ「電話すること自体が面倒」だということなので、その辺りをどう判断するかがポイントになるとと思われる。

- ・楠窪地区は加茂地区と状況が違い、人口が非常に少ない。資料36ページにあるように、バスの便は一日2往復しかない。ここまではなれば生活できないということで湯谷口～楠窪間の利用がない。「利用ができない」若しくは「人口が少なすぎ」、「かなり分散している」という風にこの資料からすると見えてしまう。
- ・楠窪地区へ乗合型のデマンドタクシーの導入という提案であるが、そもそも人口が少ない中で乗り合うことができるのか。予約が入ってきても多分一人しか乗っていない。そこが心配なところ。
- ・データを見ると地域属性が全然違うような地域であるため、その辺りを踏まえて現地で実際の要望等を聞きながら進めていかれてはと思う。

○事務局

- ・ご意見を踏まえ、今後の地元協議、事業者との協議のなかでは、こういったところも整理しながら検討していきたい。導入に向けて前向きに進んでいきたいと考えている。

○会長

- ・質問や意見はないか。
- ・地域の意向でもあるデマンド型乗合タクシーの導入について、承認いただけるか。
＜委員から承認の拍手＞

(2)せとうちバスの路線見直し(案)について

○会長

- ・せとうちバスの路線見直し(案)について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

＜資料2 説明＞

○会長

- ・質問や意見はないか。

○愛媛県ハイヤー・タクシー協会

- ・この資料を見て、ほとんど改善策というか見直し(案)が変わらないわけだが、現状で西条駅、郵便局、水都市、西条市役所、中央病院、これらの乗降者はどのくらいあるのか。
- ・現状は把握しているのか。

○事務局

- ・先ほどの資料1の5ページに、25年に実施したバス路線の利用状況がある。資料では、市役所前の上りが3.7の下りが1という状況。中央病院前については、上りが3の下りが0.7。済生会病院についても上りが0.7の下り0.3の利用状況になっている。水都市や郵便局等はバス路線が違うために、当資料ではお示しできていないところがある。
- ・当調査では職員一人がバスに乗り込み、バス停での乗降について把握を行った。現状については、把握をバス事業者にお願いする方法があるが、乗務員が一人であるといった状況を踏まえてもバス停での乗降について把握するのは困難である。利用状況は25年度の実績をとらせてもらっている。

○愛媛県ハイヤー・タクシー協会

- ・わかりました。ということは、あまり乗降者がいないということか。

○事務局

- ・25年度に3日間調査させていただいた状況では、そこで乗り降りされている数はさほど多くないと思われる。

○西条市連合自治会

- ・市街地のバスの見直しだが、これは結局循環型ということか。

○事務局

- ・ J R伊予西条駅を起点にして、再度 J R伊予西条駅に戻ってくるということを踏まえても循環型、循環的な役割を担う路線となってくる。

○会長

- ・ J R伊予西条駅から西条運動公園へ行くのに、中学生などは歩いて行っている現状がある。また、今後、ひうち会館を改装し、産学官連携拠点として愛媛大学も入居する。その他の研究機関等も入ってくると思われる。愛媛大学からも、 J R伊予西条駅からそこへ向かうためのバスが無いという点が指摘されている。そういったところをどう対応するかは今後の課題であると思っている。

○香川高等専門学校 宮崎准教授

- ・ 循環バスもいろいろある。私が今関わっている自治体が循環バスを導入し、1回乗車1000円で行っている。収益改善はないものの、利用者は増えている。
- ・ 今までこういった路線がなかった。いろいろとこういった回遊を保護するような手段を入れていくのも良いかと思う。
- ・ メッシュ、メーター単位で昼間人口や小売店販売額の分布状況を見ると、まさに循環バスが通りそうな、西条の中でも比較的昼間人口も高く、販売分布額が比較的高いエリアになっている。そういう意味では、回遊を促すようなパターンになっていけば街の活気がでてくるかと思う。客の奪い合いになりがちだが、このあたりは共存共栄できれば良いと思う。

○会長

- ・ せとうちバス路線見直しについて、承認いただけるか。
＜委員から承認の拍手＞

(3)いきいきバス制度の拡大について

○会長

- ・ いきいきバス制度の拡大について、市の担当者から説明をお願いする。

○高齢介護課

＜資料3 説明＞

○会長

- ・ 75歳以上の方が対象で、市内の起終点がある路線のみ一乗車1000円という制度を立ち上げており、非常に好評をいただいている。
- ・ 今回、せとうちバスの理解をいただき、市内を通過するバス路線についても、市内で乗り降りする部分について当制度の対象となるようにしたいということである。
- ・ 質問や意見はないか。

○西条市老人クラブ連合会

- ・ 丹原町にB&Gというスイミングプラザがあり、かなり利用されている。建設当時から要望はあると思うが、ここへのアクセスが一つもない。新規のいきいきバスの路線の採用についてはどういうふうを考えているのか。

○事務局

- ・ 本年10月にせとうち周桑バスの協力のもと、ダイヤと一部の路線の見直しを行ったところである。この見直しも最終ということではなく、今後も利用者等の要望も聞きながら適宜見合ったバス路線に変更していく。改善するところは改善するということで、今後の取り組みを進めていきたいと思っている。

○西条市医師会

- ・ 西条市休日夜間急患センターは、年間約1万人の患者が利用している。急患センターは既

にバスが通っている国道沿いにある。是非、一人でも二人でもバスの利用者を誘導するのであれば、休日夜間急患センターどちらでも利用できるように停留所を設けていただきたい。

○愛媛県バス協会

- ・バス停設置は道路管理者と警察の管理。徳島県の例では、都心の病院に郡部の方から透析に来る人がおり、病院前にバス停を作ってもそこでの乗降ができない。そのためわざわざ病院の前までループ状に入ってバス停を設置した。
- ・バス停の新設は道路管理者や公安委員会に対して照会があり、それぞれが現状を把握した後、それに対する意見を運輸支局、運輸局に回答する形になる。
- ・バス停の設置には時間がかかることを理解いただき、医師会からバス停新設の要請があれば、新設の協議をバス会社へ相談することになる。

○瀬戸内運輸

- ・そこは国道11号である。今まで通り歩道がないところはバス停が作れないし、野々市バス停の関係もある。国交省の関係、警察の関係もあるので検討する。
- ・最近の道路は歩道を2mつけないといけない。11号が拡張されれば大丈夫だが、それがないとなかなか進まない。

○会長

- ・いきいきバス制度の拡大について、承認いただけるか。
＜委員から承認の拍手＞

(4)JR伊予西条駅のバリアフリー化について

○会長

- ・JR伊予西条駅のバリアフリー化について、市の担当者から説明をお願いします。

○都市計画整備課

＜資料4 説明＞

○会長

- ・質問や意見はないか。
- ・国体、特に障がい者競技の会場もある。それまでには完成させたい。
- ・JR伊予西条駅のバリアフリー化について、理解いただけるか。

(5)その他について

○会長

- ・その他、協議事項の他に質問や意見はないか。

○香川高等専門学校 宮崎准教授

- ・今年度は、山間部の路線と中心市街地ということで大きく分かれている。山間部は、住民の流失に関わるため十分に住民アンケート等を踏まえながら進めていただきたい。
- ・昨年度協議会で伝えた網計画を申請した結果などは連絡があったのか。

○事務局

- ・昨年度策定に向けて取り組んでいた「西条市地域公共交通網形成計画」について、四国運輸局に提出している段階であるが、その中で目標値の設定をもう少し具体的に数字を挙げられないかと課題をいただいている。解決に向け調整を進めながら提出をしていきたいと考えている。

○香川高等専門学校 宮崎准教授

- ・昨年度、法律の改正があり、公共交通網形成計画という形になっている。国の審査などが

かなり厳しくなっているが、四国地区以外では結構計画が上がってきている。四国地区は非常に少ない現状のため、西条市の計画について国に認めてもらえる形での計画立案を進めていただきたい。

○会長

- ・以上で予定していた協議事項はすべて終了したので進行を再び事務局へ戻す。

○事務局長

- ・承認いただいた内容に従って業務を進めていく。
- ・以上をもって、本日の会議は散会する。

平成27年度 第3回 西条市地域公共交通活性化協議会委員

役員	委 員			出欠
	機 関 ・ 団 体	役職名	氏 名	
会長	西条市	副市長	真鍋 和年	○
		企画情報部長	藤岡 正	○
	瀬戸内運輸株式会社	専務取締役	門田 正孝	○
	せとうち周桑バス株式会社	取締役社長	越智 文隆	○
	一般社団法人愛媛県バス協会	専務理事	黒河 敏則	○
	愛媛県ハイヤー・タクシー協会	会長	渡部 光男	○
	四国旅客鉄道株式会社	愛媛企画部長	窪 仁志	代理：羽野精一
	国土交通省四国地方整備局 松山河川国道事務所	副所長	黒木 賢二郎	×
	西条警察署	交通課長	吉岡 敏高	○
	西条西警察署	交通課長	越智 栄一	○
副会長	西条市連合自治会	会長	田口 勝三	○
	西条市老人クラブ連合会	会長	服部 宗市	○
	西条市連合婦人会	会長	徳永 米子	○
	西条市社会福祉協議会	会長	丹 勝敬	○
監 事	西条商工会議所	副会頭	星加 隆夫	○
	周桑商工会	会長	渡部 英志	○
	西条市医師会	事務長	稲井 義隆	○
	瀬戸内運輸労働組合	執行委員長	砂田 篤志	代理：見崎直樹
	国土交通省四国運輸局 愛媛運輸支局	首席運輸企画専門官	久保田 東宏	代理：池田幸謙
		首席運輸企画専門官	藤井 一磨	○
	西条市観光協会	副会長	伊藤 和豊	○

愛媛大学大学院理工学研究科	准教授	倉内 慎也	×
香川高等専門学校建設環境工学科	准教授	宮崎 耕輔	○
松山大学法学部法学科	准教授	甲斐 朋香	×

愛媛県東予地方局総務企画部	地域政策課長	山本 泰士	代理：古川宏史
愛媛県東予地方局建設部	建設企画課長	日野 茂	○